

メンバーズ



入内島 健さん (R-052)

15年ほど前に子供が生まれるまで、アマオケに没頭し、室内楽もいくつか掛け持ちして楽しんでいました。その頃チェロ協会ができて、当初は人数が少なかったこともあり、山中湖でのサマーキャンプに参加しました。山崎先生のアンサンブルクリニック、堤先生のマスタークラスなど盛り沢山で、夜遅くまで弾いたり話したりしたことを懐かしく思い出します。

去年から演奏活動を再開しました。自分はあと何年弾けて、何を一番やりたいか、と考えた時に、それは「室内楽だ!」と思ったのです。今は、年に二回ほど合同演奏会に参加して、主に弦楽四重奏をやっています。以前は、自分たちだけで合わせて譜面通りに弾ければよしという演奏会もたくさんあったのですが、今は自分たちで出来るところまでやった後

に、必ずレッスンを受けるようにし、客観的な意見を頂く事が、とても大切だと思っています。それは、限られた時間を有効に使うということでもあります。

もう一つ、子育て前と大きく変わったのは、積極的に演奏会に足を運ぶようになったことです。あらゆる編成のクラシックを初めとして、ロック、バレエ、歌舞伎、寄席など色々なものを見聞きして自分の引き出しを増やし、弾くだけの生活から脱しました。

一つだけ、老婆心から書いておきたいことがあります。学生の間は、レッスンが必須のオケに所属していたので、社会人になって、アマオケをいくつも掛け持ちしているような方の中に、「一度も先生についたことがない」という方がかなりいらっしゃることに驚きました。せっかくチェロを人生の友として選んだのに、レッスンを受けないのはとてももったいないことだと思います。習えばいつの間にか出来ていることが、習わずにいると解決出来ないまま歳を取ってしまう、ということが多々あるように思います。まずは個人レッスン、そして、せっかくやるならアンサンブルもレッスンを受けることを強くお勧めします。

フィツェンハーゲンの《アヴェ・マリア》からポッパーの《演奏会用ポロネーズ》、久石譲の《おくりびと》などを披露した。

各々の個性が演奏のみならず、トークでは爆笑を誘い楽しいステージとなった。



左から渡部玄一さん、植草ひろみさん、渡邊辰紀さん、菊地知也さん

植草 ひろみさん (R-011)

「超チェロ組」(菊地知也、渡部玄一、渡邊辰紀、植草ひろみ)、藝高の同級生4人によるチェロカルテットが、時を経て演奏を再開した。2017年5月10日、ハイレゾ・サラウンドのアルバム「超チェロ組」をリリースした4人が、e-onkyo主催の「ハイレゾ・サラウンド配信イベント」試聴&ミニコンサートに出演した。場所はGibson Brands Showroom Tokyo。5.1chのハイレゾ・サラウンドはお客様に混ざって本人たちも聴き、自分の演奏を客席で聴いているような体験をした。試聴会終了後、4人によるコンサートを展開。超速のアンダーソン《フィドル・ファドル》(YouTubeで当日の演奏を試聴できます)。

事務局からのお知らせ

■ご住所・メールアドレス変更についてお願い

事務局からお送りするお便り・メールが住所・宛先不明で戻ってきてしまうことが度々ございます。ご住所・メールアドレスを変更された場合は必ず事務局にご一報下さい。

また、DM便発送の際はクロネコDM便を利用しております。表札をお出しになっていない方は宛先不明となりますので、併せてお知らせ頂けると幸いです。

編集後記

先日、社会福祉法人の「もえぎの会」でアウトリーチを実施して参りました。詳細は次号でご報告いたします。

また、事務局に新しく加わって頂くことになりましたお二人を

ご紹介いたします。(繁忙期を中心にお手伝い頂く予定です)どうぞ宜しくお願いいたします。

佃 香菜子

* * *

四月から事務局にてお世話になっております。普段は、チェロの様な深い響きを奏でられる様に修行中の、歌い手です。イベントなどでお会いできるのを楽しみにしております。どうぞよろしくお祈り致します。

加形裕子

この度、事務局で働かせていただくことになりました。チェロは好きな楽器の一つなので、ご一緒できることになり、嬉しいです。これから、どうぞよろしくお祈りいたします。

栢菅有香

日本チェロ協会会報 (JCS NEWS) 第49号 2017年9月29日発行

発行：日本チェロ協会 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル22階 私書箱509号
電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.gr.jp

発行人：堤 剛 編集：日本チェロ協会事務局 編集協力：三和プリンティング(株)



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第49号 (2017年9月29日)

日本チェロ協会20周年記念フェスティバルを開催します!

日本チェロ協会は、1997年に設立され、本年11月に20周年を迎えます。協会20年の歩みを振り返り、また今後のさらなる発展を期して、11月19日(日)に「20周年記念フェスティバル」を開催致します。

記念フェスティバルでは、サントリーホール(ブルーローズ)を丸一日貸し切り、チェロ協会の20年を振り返るイベント、チェロ協会に所属する様々なチェリストが参加するコンサート、そして日本チェロ協会が委嘱した初演曲の試奏会など多彩なプログラムを予定しています。会員の皆さんが20周年を共に祝い、新たなスタートと共に切る絶好の機会、奮ってのご参加をお待ちしています。

20年を振り返る展示とトークショー

日本チェロ協会の設立にあたって設立総会が開催されたのは1997年11月24日。設立当初の事務局は、お茶の水のカザルス・ホール(東京都千代田区、現・日本大学理工学部お茶の水校舎)内にありました。そのホールがあるお茶の水スクエアで行われた総会には、32名の参加者がありました。その後20年間に亘る活動の中では、各国のチェリストを招いて実施したマスタークラスを27回、会員が主宰するチェロサロンを39回、2010年に始まったチェロの日を7回開催しています。また、2005年に国際チェロアンサンブル協会とともに「International Cello Congress in Kobe 2005」を共催、2007年には「チェロの音楽会」を、さらに2011年には「チェロコンgres・イン・ジャパン2011」を開催。また近年では、医療機関などにおけるアウトリーチ活動を展開するなど、多岐に亘る活動を行ってきました。

記念フェスティバル午前の部では、活動の軌跡として、これまで開催したイベントの写真やプログラムなどを展示するほか、貴重な音源や映像などについてもご紹介致します。さらに、設立当時や今までの活動を経験された会員・スタッフを迎えて、トークショーを開催。設立秘話や設立の目的についてお話を伺います。

記念コンサート

記念フェスティバル午後の部の幕開けは、国内外で活躍する会員による、会員の皆さまのためだけの記念コンサート。ソロ、



カルテット、12重奏と、幅広い音域と様々な音色を持つチェロならではの魅力をお届けします。過去にチェロ協会主催のマスタークラスを受講された若手から、チェロ協会の設立にも携わったベテランまで、17名の多彩な出演者によるチェロ協会ならではの競演をお楽しみに!

委嘱曲 初演試奏会

日本チェロ協会の会則には「チェロのためのレパートリーの充実を図る」ことが、その目的として記されています。そこで20周年に際して、日本チェロ協会ではチェロ・オーケストラのための楽曲を会員でもある小林幸太郎氏に委嘱し、記念フェスティバルでは本委嘱曲の初演を兼ねた試演会を開催致します。

小林氏は、「桐朋学園チェロアンサンブル」の常任アレンジャーとして楽曲を多数提供されているほか、2015年に日本チェロ協会が開催したマスタークラス「バルビ先生とチェロを学び、音色を楽しむ夕べ」では、《Nagi——2本のチェロとピアノの為のソナタ——》(2015)を発表されるなど、チェロ奏者としてのみならず、作編曲家としても幅広く活躍されています。委嘱曲は、様々な方が今後演奏されることを想定しており、今後チェロを持ち寄るイベントでは定番のチェロ・アンサンブルの“顔”となるような楽曲になればと願っています。ぜひ初演曲の誕生にご参加下さい。なお、座席準備の都合上、本試演会への演奏での参加には、記念フェスティバルの参加お申込に先だってお申込をお願い致します。

新たな門出に向けて

別途ご案内差し上げているとおり、日本チェロ協会は法人化に向けた準備を進めております。初演試演会後には、同会場にて懇親会の開催(参加費別途)も予定していますので、チェロ協会の活動拡大やさらなる発展に向けた「新たな門出」に向けて大いに語り合って頂ければ幸いです。

日本チェロ協会のこれまでもを振り返り、今後の活動を期す、そして会員同士の交流をさらに深める機会として、20周年記念フェスティバルにぜひご参加下さい!

JCS NEWS 第49号 コンテンツ

- 1 20周年記念フェスティバルのご案内
- 2・3 Cellists' update
- 4 アウトリーチ活動・評議委員会開催報告
- 5 マスタークラス開催報告
- 6・7 岡本侑也さん・北村陽さん特別インタビュー
- 8 メンバーズ・事務局からのお知らせ

菊地 知也さん (R-063) Tomoya KIKUCHI

1. 近況を教えてください

高校時代、チェロを専攻している同級生が4人だったのですが、昨年からの4人でチェロ・カルテットの活動を始めました。CDを作り、来年にはコンサートも行います。また、大学の時に組んでいたカルテットの活動を来年から再開します。音楽とは関係ありませんが、小学校の同級生とも一昨年から急に集まるようになり、ここところ昔の仲間との繋がりが復活していて、とても楽しく懐かしい時間が増えてきています。ここ2、3年の事なので、不思議に思っています。



2. チェロを始めたきっかけを教えてください

5歳でヴァイオリンを始めましたが、先生の厳しさについていけず、6歳の時に座って演奏できるチェロに変わりました。元々父もチェロの音が好きだったようです。

・最初にチェロを師事された先生の印象は？

最初の先生は非常に優しく常に楽しく教えて頂きました。いつも褒めて貰っていました。私の師事した先生方は、皆とても優しい先生ばかりでした。あまり怒られた経験は有りません。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

何かを買おうと思ってカタログをじっくり見ている時です。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

車の運転が好きなので、かなり速くの仕事でも車で行ったりします。

5. プロのチェリストを目指している学生や若いチェリストに望むことはありますか？

是非、演奏会に足を運んで生の音を沢山聴いて欲しいと思います。今はネットで簡単に聴く事が出来ますが、やはり実際に鳴っている音を自分の耳で聴く事がとても大事だと思います。また、チェロの曲は勿論貪欲に知識を増やして欲しいですが、それ以外でも、室内楽や歌曲やオーケストラなど、ジャンルを問わず、沢山の名曲が有るので、沢山聴いて音楽の幅を広げて欲しいと思います。

【演奏会情報】

アンサンブル・ノマド結成20周年記念公演

第61回定期演奏会：響宴 Vol.3 ～拡散するクラシック音楽

日時/2017年11月23日(木・祝) 16:00開演

会場/東京オペラシティ リサイタルホール

料金/【前売】一般：3,000円 大学生：2,000円 高校生以下：1,000円

【当日】一般：3,500円 大学生：2,500円 高校生以下：1,500円

【セット券(4公演)】一般：10,000円 大学生：6,000円 高校生以下：3,000円

出演/アンサンブル・ノマド

菊地知也(Vc)、佐藤洋嗣(Cb)、佐藤紀雄(Gt)

間/キーノート

TEL：0422-44-1165 E-MAIL：keynote_music@fol.hi-ho.ne.jp

聴き所/

「何か協奏曲を」という話を頂いた時に、一生演奏する事は無いだろうと思っていたグルダのチェロ協奏曲がすぐに思い浮かびました。5楽章からなるこの曲は全部の楽章がそれぞれ全く違うジャンルの音楽になっています。聴いていてとても楽しく思わず笑顔になってしまうワクワクする曲です。20年間、メンバーとして活動して来たアンサンブル・ノマドならばこの曲をお願いしても許してくれるだろうと。そして提案して、それが現実のものになってしまいました。しかし、これが相当手強い曲でした。詳しい苦勞は省きますが、もう少し若い時に機会があったらと思わずにはられません。

山本 祐ノ介さん (R-260) Yunosuke YAMAMOTO

1. 近況を教えてください

最近、縁あってミャンマー国立交響楽団の音楽監督としても活動を行っています。文化の基盤が違うところでの活動は自分自身の根本的な部分に立ち返って考えさせられることも多く、とても勉強になっています。また、日本でのクラシック音楽普及にもがいていた父や祖父はいろんな苦勞があっただろう、それらをどうやって乗り越えたのだろうか、などと考えを巡らしています。

・ミャンマーでの音楽活動の中で、一番驚かれたエピソードはありますか。

ミャンマーではクラシック音楽自体の認識がとても低く、モーツァルトやベートーヴェンの名前を知っている人はいても、ブラームスを知っている人はほとんどいないという状況に驚きました。国立交響楽団の楽員はオーケストラに就職(20歳くらい)した後に、各楽器に配属され、それからその楽器を練習し始める方もいるようです。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

小学2年生の時、学校のクラス全員が出演する演奏会で花形のピアノを弾くはずだったのですが、直前に鉄棒から落ちて左手を骨折、開放弦でドとソだけを演奏するチェロの係に回されました。それが、初めてチェロを手にしたきっかけです。その時、チェロの方がピアノよりずっと易しいと勘違いして、ピアノよりチェロをやりたいと親に訴えてしまったのです。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

コンサートの寸前です。コンサートの前日や当日の朝あたりはドキ



ドキばかりでとてもいやな気持ちになりますが、本番寸前には開き直ってしまうのかもしれない。なんだかワクワクします。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

あまり上手くはないですが卓球が好きです。菊地知也さんにはなんとか勝りました。

5. 今年の1月、チェロの日にご出演いただきましたが、ご感想をお聞かせください。

聴衆の皆さんのあたたかく見守っていただけているような雰囲気はとてもうれしかったです。反面、チェロの難しさを知っている方が多いと思うとちょっと怖いような複雑な気持ちもありました。

6. 今後どのような音楽家として活動していきたいか教えてください。

チェロ、指揮にかかわらず、少しでも人に幸せを配れる音楽家を目指しています。そのためには既成概念に縛られずに、自分が純粋に好きだと思える音楽をシェア出来たらと思います。

【演奏会情報】

よみがえるあの日

華麗なるオーケストラサウンドで贈る銀幕への勧誘

“名画座”コンサート

日時/2017年10月20日(金)

①11:30開演 ②14:30開演 ※同一プログラム 1日2公演

会場/浜離宮朝日ホール

料金/全席指定 5,000円(SS席7,000円)

出演/山本祐ノ介(指揮とお話)、東京ニューフィル・ポップスオーケストラ

曲目/80日間世界一周、風と共に去りぬ、エデンの東、ティファニーで朝食を、

シェルブールの雨傘、南太平洋、ゴッドファーザー、ベン・ハー、

太陽がいっぱい、他

間/ミリオンコンサート協会 TEL：03-3501-5638

石川祐支さん (R-324) Yuji ISHIKAWA

1. 近況を教えてください

札幌交響楽団の首席奏者として今年で11年目になります。そして、今年から母校の東京音楽大学の指揮科の学生にアドバイスをするアドバイザーとして、月に1～2度ほど東京へ来ています。東京での演奏は、札幌の東京公演が主になります。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

初めはピアノを母から習っていたのですが、妹がヴァイオリンを始めたのが羨ましかったのがきっかけです。

それでなぜチェロかと言うと、どうせなら妹の持っている楽器より大きな楽器が良いと思ったからです。

3. 初めてチェロを弾いた時に、どのような印象を持たれましたか？

体が小さく分数の小さなチェロだったので、チェロの良さはあまり分からなかったのですが、初めて楽器を持って演奏するという事に関しては、とても嬉しかったと記憶しています。

4. チェロの作品で、思い入れが強い作品がございましたら、その理由と共に教えてください。

今現在もよく演奏しますし、昨年リリースしたCDにも入っている曲で、シューマンの《幻想小曲集》がとても好きな曲です。この作品は歌心がないと十分に表現する事が困難な曲で、演奏する度に少しずつ違った表現になっていく事から、これから10年経ったらどの様な演奏になるのか非常に楽しみな曲です。この曲に限らずシューマンは交響曲も好きですし、室内楽も素晴らしい曲が多いので、シューマンの作品はとても好きです。



©佐藤雅英

5. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

音楽とは関係ありませんが、家族で遊びに出かける時。

6. チェロ以外に好きなことはありますか？

料理をする事が趣味なので、暇な日があれば料理をしています。ジャンルは問いませんが、特に煮込み系(ビーフシチュー、牛すじの煮込み等)を作るのが好きです。

7. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいか教えてください。

オーケストラはもちろん今まで通り頑張りますが、室内楽をもっとたくさん演奏したいです。

【演奏会情報】

宮澤功行先生の古希お祝い演奏会 Vol.2

日時/2017年10月20日(金) 19:00開演

会場/札幌コンサートホールKitara小ホール

料金/大人：3,000円、中学生以下：1,000円

出演/西本夏生、宮澤功行(Pf)、田島高宏(Vn)、石川祐支(Vc)

間/札幌コンセルヴァトワール TEL&FAX：011-822-6984

PTNA「石川越章(社)全日本ピアノ指導者協会北海道支部」

TEL：011-622-0100 FAX：011-615-0709

【CD情報】

ブラームス チェロ・ソナタ(全2曲) FOCD9722

演奏：石川祐支(Vc)、大平由美子(Pf)

曲目：ブラームス：《チェロ・ソナタ 第1番》Op.38

《チェロ・ソナタ 第2番》Op.99

シューマン：《幻想小曲集》Op.73

ドヴォルジャーク：《森の静けさ》Op.68-5

玉川克さん (R-497) Masaru TAMAGAWA

1. 近況を教えてください

室内楽シリーズを栃木で始めましたが、それが18回目までおわり、現在19回目の準備をしています。また、カルテットが地味に結成から15年が経ちました!!

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

チェロは母に手を引かれ無理やり始めさせられました。遊びに行くはずが、楽器を持ったおじさんが!!

これが最初の先生の印象でした

・当時のチェロに対する印象はいかがでしたか？

外で遊ぶ方が好き!というタイプの子も多かったのでまず座っていることも難しく大変でした。チェロを弾いて楽しいなと思ったのは10年後くらいの話です。弦楽合奏を始めみんなと一緒に弾くのが楽しいと思った事がとても大きい事でした。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

やはり気心知れた友人たちとの室内楽が今は楽しいです。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

月並みですが読書や映画を見るのが好きです。詳しくないのですが、ジャズやボサノバを聴きながらお酒を飲むのが…。みんなでワイワイ大好きです(チェリストは多いですね!!!)

5. 今年の1月、チェロの日にご出演いただきましたが、ご感想をお聞かせください。

山本さんにお誘いいただき、倉田門下の若手二人とのカルテットは本当に楽しかったです。四人でご飯にも行きました!!(山本さんと美



©imura

味い中華、イタリアンと…リハーサルよりもご飯を食べました)

世代としても丁度僕が真ん中の年代で色々勉強になりました。演奏も急速参加させていただいたのですが、皆様すごく楽しんでいらっして、いい雰囲気でした。初日はコンサートも聞かせていただいた。正直こんなチェリストばかりのところでは弾きたくない!!!と…

6. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいか教えてください。

今後も演奏会、レッスン、またスタジオワークなど、色々チャレンジしていきたいと思います!!

【演奏会情報】

玉川克の室内楽コンサート Vol.20 東京公演 Cello×Piano

日時/2018年3月6日(火) 18:30開場 19:00開演

会場/JTアートホールアフィニス

料金/一般：4,000円 学生：2,000円

出演/玉川克(Vc)、蘭田奈緒子(Pf)

曲目/ベートーヴェン：《チェロ・ソナタ第2番》Op.5-2

ショスタコーヴィチ：《チェロ・ソナタ》Op.40

ブラームス：《チェロ・ソナタ第2番》Op.99

間/玉川克チェロリサイタル実行委員会

TEL：03-5926-8650 E-MAIL：info@cellotama.com

聴き所/

来年の3月に桐朋学園時代の同級生でもある蘭田さんとリサイタルをします。彼女はチャイコフスキー・コンクールで最優秀伴奏者賞を受賞したり、最近の世界の有力若手チェリストとたくさん共演しているの、すごく楽しみです。学生時代は室内楽も組んだりしていたのですが、15年近くぶりの共演なので楽しみにしています。

アウトリーチ活動報告／評議委員会開催報告

病院に新しい春の風を運んでいただきました

縁とちょっとした偶然が、楽しく新しい音色を作ってくれるのだと思います。我々と日本チェロ協会様との出会いは、学会における発表の場でした。それが当院で初となるチェロ・コンサートを開催するきっかけとなったのです。

市立福知山市民病院は、京都府北部に位置する地域基幹病院です。院内コンサート・チームは、患者さまやご家族、お見舞いの方々に、音楽による癒しと安らぎを提供し、心理的な働きかけによる健康回復を目的に、院内での音楽活動を推進しています。チームは医師をリーダーとし、臨床検査技師、看護師、理学療法士、臨床心理士などからなる多職種で活動しています。チームの前身の「音楽友の会」が1997年に発足し、その活動を2013年に当チームが引き継いでからは、年3回程度の院内コンサート、また週1回のピアノ・コンサートを企画・運営しています。これまで、ピアノ、サクソ、和太鼓、合唱、ブラスバンドなど、様々なコンサートを届けてきました。

2016年4月、院内コンサートの取り組みの内容を、第13回日本医療マネジメント学会にてポスター発表しました。ポスターを貼り終え、発表の記念にと、ポスターの前で写真撮影をしようとした際、厚かましくも撮影をお願いしたのが貴協会事務局の方でした。お互いに挨拶を交わした後、貴協会の活動をお伺いし、連絡を取るようになりました。

せっかくのご縁を早く結実させたいと考えていたところ、2017年3月15日に、斎藤建寛氏とピアニストの細見理恵氏にお越しいただき、チェロ・コンサート開催の運びとなりました。当日は、病棟のロビーが、入院中や通院中の患者さまやご家族の方々など、120人以上の聴衆で一杯になりました。サン＝サーンスの《白鳥》やJ.S.バッハの《無伴奏チェロ組曲第1番》をはじめ、我々からお願いした「みんなで歌おう」のコーナーも併せた全9曲を、分かりやすい解説を交えて演奏いただき、1時間を超える楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。聴衆の方々からは、「病気を忘れて楽しい時間を過ごせました」「チェロの素晴らしい音を聴かせて頂き好きになりました」「心癒されました」「チェロを初めて生で聴き感動を覚えました」などの感想が多数寄せられ、大変な好評を博したコンサートになりました。

当チームは、これからも患者さまの癒しと安らぎのためにコンサートを企画していきます。そして、今回生まれた貴協会とのつながりの音色を大切に、今後も活動していきたいと思っております。ありがとうございました。

市立福知山市民病院 院内コンサート・チーム



2017年度 第1回評議委員会 開催報告

以下の内容で承認されましたのでご報告いたします。

日時：2017年7月12日(土) 18:00～20:30

会場：赤坂見附MTビル・I会議室

出席者：11名(敬称略)

(会長) 堤 剛 (副会長) 中島顕、堀了介
(書記) 山崎伸子
(評議委員) 倉田澄子、長谷川陽子、石島栄一、尾崎勝吉
(事務局) 高崎森久、渡邊亮、佃 香菜子

議 題

- 1) 2016年度活動内容・決算
- 2) 2017年度活動計画・予算
- 3) 2017年度活動の企画案
- 4) 法人化について

◇2016年度活動内容

- ・評議委員会：2回開催(7月21日、3月30日)
- ・会報発行：2回発行(第46号：6月2日、第47号：10月20日)
- ・HP運営：コンサート情報76件掲載(会員52件、非会員24件、※昨年比+18件)
News & Topics：4件掲載
チェリストを探す：28名(昨年比+5名)
- ・アウトリーチ：**社会福祉法人もえぎの会(7月23日)** 長谷川陽子さん、石島栄一さん、藤井直さん、芳山朋史さん
福知山病院(3月15日) 斎藤建寛さん、細見理恵さん
- ・チェロサロン開催(7月24日 13:30開講)
講師：向山佳絵子さん 会場：サントリーホール リハーサル室
参加者数：46名(アンサンブル28名、聴講11名、関係者7名)
- ・マスタークラス開催

オーケストラ・スタディー(10月10日 18:30開講)

講師：タマーシュ・ヴァルガさん
会場：サントリーホール ブルーローズ
来場者：70名(受講生8名、会員36名、非会員23名、関係者3名)

マスタークラス(11月22日 19:00開講)

講師：マリオ・ブルネロさん 会場：汐留ベビシユタイン・サロン
来場者：83名(受講生3名、会員50名、非会員19名、関係者11名)

- ・第7回チェロの日開催(2017年1月28日、29日)

会場：JTアートホール アフィニス

<1日目>チェロと仲良くなるコンサート

出演者：高橋麻理子さん、中木健二さん、山本裕康さん(Vc)、堀 雅貴さん(Mandolin/Mandolincello)、永田美穂さん、諸田由里子さん(Pf)
来場者：121名(会員62名、一般20名、学生19名、招待20名)

<2日目>チェロ・アンサンブル・コンサート

出演者：山本祐ノ介さん、玉川克さん、佐山裕樹さん、森田啓佑さん、香月麗さん、牟田口遥香さん(Vc)
チェリストの集い参加者：56名(会員55名、非会員1名)
来場者：170名(会員125名、一般21名、学生4名、招待20名)
会員数：283名(正会員222名、学生会員56名、賛助会員5名)

◇2017年度活動計画

- ・評議委員会開催 2回(7月12日、秋予定)
- ・会報発行 3回発行予定(第48号：4月10日、第49号：夏頃予定、20周年特別号)
- ・HP運営
- ・チェロサロン開催 1～2回
- ・アウトリーチ実施 1～2回
- ・マスタークラス 1～2回
- ・20周年記念フェスティバル開催 11月19日
- ・第8回チェロの日 2018年3月3日～4日

※予決算につきましては、別紙をご参照ください。

アルド・マータ チェロ公開マスタークラス開催

日時：2017年6月21日(水) 14:00

会場：スペイン大使館 通訳：高島まき

来場者数：受講生3名、会員25名、関係者13名

去る6月21日、アルド・マータ氏をお招きし、マスタークラスを開催いたしました。当日は生憎の荒天でしたが、たくさんの方にお越しいただきました。また、大使館内にて「ガスパー・カサド 原智恵子コレクション」の展示会があり、マスタークラス終了後には多くの方が立ち寄っていらっしゃいました。マータ氏は、カサドの弟子エリアス・アリスクレンに師事しており、演奏を交えながら熱心にご指導下さいました。



左から菊川真さん、佐藤桂菜さん、アルド・マータ先生、濱田遥さん

受講レポート

S-163 佐藤 桂菜(Walnut Hill School for the Arts)

シューベルト：《アルペジオーネ・ソナタ》D.821より 第1楽章

今回、私はシューベルト作曲の《アルペジオーネ・ソナタ》を受講しました。この曲はアルペジオーネという楽器のために作曲され、その楽器はチェロより少し小さく、エンドピンがない6弦の楽器です。チェロで弾くとアルペジオーネに比べて音の跳躍が激しくなり、技術的に難易度の高い指運びとなります。

ひと月ほど前からこの曲に取り組み始めたのですが、あまりの難しさに曲を変えようかとも思いました。しかし、せっかく世界で活躍されている偉大な先生に習えるので、難しいところをどんなふうにも弾いたらよいのか教えていただきたく、あえて難曲にチャレンジしました。

先生がおっしゃったことで一番印象的だったのは、とても難しい曲だけれども、聴きに来てくださるお客様にそれを悟られてはいけないということでした。難しいところを簡単に楽に弾いていると思っただけのように演奏しなくてはならないとご指導いただきました。それは、お客様には音楽を聴いて幸せな気持ちになっていただかなければならないため、難しく苦しい演奏になってはいけないからだそうです。そのため、スピッカート奏法等の弾き方をいくつか教えていただき、大変勉強になりました。

また、私が今一番課題だと思っているのは、右手の弓の使い方です。先生は、どうやったらこの《アルペジオーネ・ソナタ》にあう音を出せるのかを教えてくださいました。さらに、その右手を練習する時は、ノン・ビブラートで練習するようにとおっしゃいました。また、先生は私の悪い癖をご指摘くださいました。一番驚いたのは、先生がとても難しい箇所をいとも簡単に弾いてしまったことです。おそらく、このようになるまでには相当な練習と努力があったのだらうと実感いたしました。私はまだまだ練習不足のため、これから何年もかけてこの曲に取り組んで

いかなければならないと思いました。いつかこの曲を、先生のように演奏できるようになりたいです。

S-188 菊川 真(桐朋学園大学カレッジ・ディプロマ・コース)

J.S.バッハ：《無伴奏チェロ組曲第3番》BWV.1009より(プレリュード)

この度、J.S.バッハの《無伴奏チェロ組曲第3番》より(プレリュード)を聴いて頂きました。マータ氏はエンドピンを立てず、チェロを脚で挟む形で演奏され、体全体を使った躍動感のある明快な音を聴かせて下さいました。40分のレッスンの大半は演奏以前の部分、即ち楽曲へのアプローチ、作曲家や歴史的背景に関する知識と教養、分析と判断のお話でした。

まず、この第3番にどういったイメージがあるのかを尋ねられ、進行するにつれ「幾つものハーモニーがあったか」「バッハは常にC-durには安定性を求めていた」といった様々なヒントを下さいましたが、終局的には、演奏する上で1つのパッセージの中はよりシンプルに、分断を生せず、クリアでなくてはならないと述べられました。この点、音は全て奏でられる前にその分析を終えていなければならないと換言できると思います。さらにこのことは、この組曲だけに止まらず、総じて演奏する姿勢においても言えることではないかと感じました。

次にお話を頂いたのはアーティキュレーションについてです。バッハが求めている表現がロマン派以降のそれと異なることは当然の前提として、やはり修辭学的に考えるべきと述べられていました。この組曲が説得的な「talking」であることを理解した上で、マータ氏の言葉を拝借すれば、ボウイングに関しては「音楽が弓をリードしてくれる」感覚を会得できるように思いました。

技術面では、18、19世紀における4声の和音の弾き方の違いや、さらにはポップアの《エチュード》を交えながら低い弦と高い弦を弾く弓の使い分けを、より詳細に見せて下さいました。マータ氏は、他の受講者のレッスンの技術的な説明に際しても、最適なエチュードを幾つか提示して下さい、エチュードの活用法を示して下さいました。最近では、バッハを演奏する際の和音の弾き方を自分自身の課題と考えておりましたので、この度のご教示は大変参考になりました。

さて、私としては、レッスンの終盤に頂いた「演奏が音楽から離れないように」というお言葉が誠に心に残るものであったと共に、自身の重要なテーマであると感じました。このお言葉を心に留め、私とチェロ、そしてバッハの《無伴奏チェロ組曲》とのより良い関係を築いていけるよう、演奏に対するスタンスを常に安定させ、自身の理想を目指して参りたいと思います。

当日は悪天候の中、運営をして頂いた日本チェロ協会の皆様、スペイン大使館の皆様、そして、お聴き頂いた皆様に心より御礼申し上げます。

S-107 濱田 遥(桐朋学園大学音楽学部)

ピアッティ：《12のカプリス》Op.25より 第12番

今回スペインからいらしたアルド・マータ先生のマスタークラスで、ピアッティの《12のカプリス》より第12番をレッスンしていただきました。当日は大雨でしたが、先生はスペイン大使館に、にこやかに颯爽といらっしゃいました。

最初に通して弾いた時は、スラー・スタッカートのコントロールがうまくいかなかったり、ハーモニクスがかすれてしまったりして、弾くことに必死になってしまいました。そのため、先生は「この曲はとても難しく、チェロ弾きが聴いていたら凄いなと感心されるが、聴衆には難しさではなく、曲を伝えなければならない」とアドバイスを下さいました。

先生は、エンドピンがないスタイルでもお弾きになるチェリストでいらっしゃいますが、リズム感のあるバリッとした迫力のある音で弾いて下さり、素晴らしかったです。またピアッティ自身もエンドピンなしで演奏していたと教えていただき、びっくりしました。

曲の冒頭からレッスンしていただきましたが、まず和音だけを取り出して、その和音の変化がいかに大事かを教えて下さいました。先生がメロディーを弾いて下さり、それに合わせて私が即興で和音の伴奏をつけたり、いろいろな試みをしていただきました。私はそれまではスラー・スタッカートのコントロールにばかり意識がいついてしまっていたのですが、肝心なのは和音であり、その変化を意識することが、カプリスとして仕上げる大事なポイントになることを教えていただきました。さらにスラー・スタッカートの弾き方については、アップの4つの音がつのめ

る傾向にあったため、スケールでゆっくりから練習をするとよいのではないかと提案して下さいました。そして次に、ハーモニクスのスラー・スタッカートは、音がかすれないために弦に近い所を水平なストロークで弾くと良いというアドバイスをして下さいました。

今回のレッスンでは、曲の和声構造の把握の重要性や技術的な練習の仕方のアドバイス、そして難しさではなく、いかに「カプリス」として聴かせるかなど、たくさんの課題をいただくことができました。私にとっては非常に苦勞する1曲ですが、これから何度も勉強する曲だと思いますので、先生から教えていただいたことを糧に曲を深めていくことができたらと思います。

この度は貴重な機会をいただきまして、心より感謝いたしております。どうもありがとうございました。

岡本侑也さん(S-104)・北村陽さん(S-105) 特別インタビュー

この度、当協会の会員である岡本侑也さんが、エリザベート王妃国際音楽コンクールで第2位を受賞され、北村陽さんが第10回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールで優勝されました。事務局では、お二人にコンクール時のエピソードや今後の展望などをお伺いしました。

エリザベート王妃国際音楽コンクール(1937-)

「イザイ国際コンクール」が前身で、1951年から現在の名称になりました。ベルギーの首都ブリュッセルで、ほぼ毎年行われています。ヴァイオリン、ピアノ、作曲、声楽部門があり、開催年によって部門が異なっています。今年、作曲部門に代わってチェロ部門が新設され、5月8日から6月3日までの約1ヶ月間行われました。審査員は計16名で、ミッシェル・マイスキーや、ゴージェ・カプソンなど名だたるメンバーで構成されています。

尚、コンクールの概要、写真、録音などが公式HP(<http://cmireb.be/>)



岡本侑也さん ©エリザベート王妃国際音楽コンクール公式FBより

でご覧いただけます。さらに、岡本さんの演奏によるドヴォルザークの《チェロ協奏曲 口短調》op.104が収録されたコンクールのCDも販売されています。

コンクール期間中は、ベルギーの男爵の称号を持つホストファミリーのご自宅に宿泊されたそうですね。どのように過ごされていたのですか？

本当に映画や物語に出てくるような素敵なファミリーでした。平日はお父様(男爵様)とお母様は働かれていて、4人の子供達は学校に通われているので、お家で留守番でした。練習したり、一緒に留守番していた2匹の犬たちと戯れたりしていました。また、土日のお昼ご飯の後は、決まって家族皆さんでベルギーのボードゲームをしたり、土曜日の夜は必ず家族揃って映画を見たり、毎週水曜日はお祖父様とお祖母様のお家で昼食会がありました。いつも本当にハートウォーミングなサポートをして下さるご家族で、ここでの生活を思い出すだけで胸がいっぱいになります。夢のような時間でした。

ホストファミリーのお屋敷だけではなくお庭も巨大で、ブリュッセルからミュンヘンに戻る直前に、このお庭で野外コンサートを企画して下さり、200人以上の方がいらして下さいました。素敵な思い出となりました。

ファイナルの結果がわかった時のお気持ちを教えてください。

もちろん2位をいただいたこと自体も幸せでしたが、それ以上に、今までお世話になった先生方や関係者の皆様、友人など、沢山の方が今回の受賞を喜んでくださったことが本当に嬉しかったです。今まで沢山の方が応援して下さいていたことを改めて感じ、鳥肌が立ちました。感謝の気持ちでいっぱいです。自分の演奏を振り返りますと反省点はもちろんありますが、当時の自分にできることは全て出しきった手応えがありましたので、どのような結果になったとしても、自分の実力として、素直に受け止めることができたかと思っています。

今後、どのようなチェリストになりたいですか？また、憧れているチェリストがいらっしゃいましたら教えてください。

音楽を通して、人と人をつなげていくことができたらと思います。作曲家と演奏家、そしてお客様が演奏会の同じ空

間で気持ちを共有できた瞬間に、人の輪が築かれていくと思います。究極の目標は音楽を通じて世界平和に貢献することです。

今憧れているチェリストはユリアン・シュテッケル先生です。とても自然な内容で、作曲家のメッセージがそのまま伝わってくるような、体に自然に染み込んでいくような演奏をされます。シュテッケル先生には、この秋からミュンヘン音大の大学院で師事することになりましたので、これからの2年間でとても楽しみです。

今後の抱負と演奏会の情報を教えてください。

今回の受賞によって、自分の課題が変わることはありませんので、今まで通り、肩の力を抜きつつも、地道に着実に、自分の課題と向き合って前に進んでいきたいと思っています。作曲家からのメッセージをくみ取りながら、作曲家とお客をつなげていく演奏者としての使命を果たすことができるように日々精進したいと思っています。

今後の演奏予定

2017年10月19日 東京シティ・フィルハーモニー管弦楽団 第310回定期演奏会
2017年12月16日 江副記念財団 スカラシップ・コンサート
2017年12月25日 トップアンホール ランチタイムコンサート vol.92
2018年1月16日 東京オペラシティ リサイタルシリーズ B→C
2018年1月20日 第205回蘭島閣ギャラリーコンサート

若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール(1992-)

「チャイコフスキー国際コンクール」の姉妹コンクールであり、ピアノ、ヴァイオリン、チェロの3部門からなっています。「若い音楽家」が対象のため、年齢は基本的には8歳以上17歳以下。今年、カザフスタンの首都アスタナで、6月15日から25日まで行われました。

コンクールの詳細は、公式HP (<http://tchaikovsky-competition.net/en/>) をご覧ください。



北村陽さん

初めての国際コンクールということで、国内のコンクールとは違って、ご準備されたことはありますか？

曲数が多かったのですが、曲の性格によって弾き替えることを意

識しました。また、体の大きな外国の人たちよりも音を飛ばすために、芯のある音を出せるように練習しました。本番では、コンクールと思わずに、コンサートのような気持ちで演奏しました。

第1次、第2次、第3次で演奏された曲目を教えてください。選曲理由も併せてお願いします。

好きな曲で自分らしさを出せる曲を選びました。
【第1次】ホッパー：《エチュード》op.73-6
ショパン：《ノクターン第20番》「遺作」
パガニーニ：《ロッシェニの主題による変奏曲》
【第2次】バッハ：《無伴奏チェロ組曲 第3番》より
〈プレリュード〉、〈サラバンド〉
ボッケリーニ：《チェロ・ソナタ第6番》
カサド：《無伴奏チェロ組曲》より
〈インテルメッツォ・エ・ダンツァ・フィナーレ〉
【第3次】チャイコフスキー：《ロココの主題による変奏曲》

第3次に進むことができるとわかった時のお気持ちをお聞かせください。また、どのようなお気持ちで、第3次に臨まれましたか？

大好きな《ロココ》を外国の人たちに聴いてもらえるのが嬉しかったです。

このコンクールは、会場の雰囲気がとても温かくて、演奏後もたくさんの方々が声をかけて下さるので、本選では会場の人達と一緒に音楽を作って、みんなが幸せな気持ちになってほしいと思って演奏しました。

関西フィルの2016年3月18日付のインタビュー (http://kansaiphil.jp/concert_infomation/2811/) で、次に挑戦してみたい曲として《ロココ》を挙げていますが、第3次で選ばれたのも、そのような理由からですか？

いろんな楽器との掛け合いが楽しくて、変奏ごとに違った表情があるので、弾いていて心が躍る曲だからです。

優勝がわかった時のお気持ちをお聞かせください。自分の演奏が世界の人たちにも楽しんでもらえたんだと、とても嬉しかったです。

会報第40号でもお聞きしましたが、今後どのようなチェリストになりたいですか？また、憧れているチェリストがいらっしゃいましたら教えてください。

自分にしかない音を持つチェリストになりたいです。憧れているチェリストは、ヨーヨー・マ、ミッシェル・マイスキー、山崎伸子先生です。

今後の抱負と演奏会の情報を教えてください。レパートリーを増やしていきたいです。

2017年10月以降(放送予定) 「題名のない音楽会」
2017年10月14日 兵庫芸術文化センター管弦楽団 第35回名曲コンサート

※公演情報およびインタビューの続きは、当協会ウェブサイトをご覧ください。